

発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

新たな熊谷市文化財の指定—「みかりや」関連資料・歓喜院仁王像(2体)—

平成 29 年 3 月 16 日開催の熊谷市文化財保護審議会において「みかりや」関連資料及び「歓喜院仁王像」の 2 件について熊谷市の文化財に指定するにふさわしいとの答申が出されました。これに基づき平成 29 年 3 月 31 日の熊谷市教育委員会において審議をしたところ、共に承認され、同日付で熊谷市の有形文化財として指定されました。(山下)

指定文化財概要

1. 「みかりや」関連資料

- ①名称 「みかりや」関連資料 一括(版木・看板・関連文書・日本画・型紙)
版木(16点)、看板(12点)、諸帳面・記録簿(8点)、
絵馬講連名帳等(21点)、書状・収蔵書等(5点)、
日本画「架鷹図」(かようず)(2点)、絵馬型紙(約300件)
- ②種別・種類 有形文化財・歴史資料
- ③所在地 熊谷市久下(一部、埼玉県立歴史と民俗の博物館寄託)
- ④所有者 戸森家

「みかりや」関連資料：久下の戸森家は「みかりや(御狩屋)」と号し、中山道を描いた浮世絵である深斎英泉「岐阻(木曾)道中 熊谷宿 八丁堤景」の題材となっている。代々茶屋を営む中で、上岡の馬頭観音(東松山市妙安寺)で売り出す絵馬を製作し、絵馬製作のための型紙、製薬や販売に関連した看板や版木、忍藩主の鷹狩りに由来する日本画「架鷹図」(かようず)などが残されています。



2. 歓喜院仁王像(2体)

- ①名称 歓喜院仁王像(2体)
- ②種別・種類 有形文化財・彫刻
- ③所在地 熊谷市妻沼(妻沼聖天山)
- ④所有者 宗教法人歓喜院

「歓喜院仁王像」：妻沼聖天山の仁王門の左右に立つ阿形像と吽形像の2体。阿形像は、像高313cm、吽形像は、像高315cmの大きさです。平成23年の修復の時点で両像の胎内から木製の胎内札が発見され、万治元年(1658)に、鎌倉の仏師である雲海によって製作されたことが判明しました。



「池上遺跡出土品」が埼玉県の文化財に指定されました。

市内池上に所在する池上遺跡は、県内のみならず関東地方の弥生時代を語る上で欠かせない遺跡です。昭和50年代に行われた発掘調査の結果、本格的な農耕集落であったことが判明し、関東地方の弥生時代研究に新たな展開をもたらしました。

このたび、発掘調査から約40年の時を経て、池上遺跡から出土した弥生時代の遺物が、「池上遺跡出土品」の名称で埼玉県の文化財(有形文化財・考古資料)に指定されました。「池上遺跡出土品」は、現在、埼玉県立さきたま史跡の博物館で開催中の「弥生の空間 実りと祈り」(2/25~6/11)において展示されていますので、ぜひご覧ください。(松田)



池上遺跡出土土偶形容器

市内遺跡発掘情報

平成 28 年度上之土地区画整理地内遺跡

市内上之では土地区画整理事業を進めるにあたり、事前に発掘調査を行っています。今回は、平成 28 年 12 月から平成 29 年 1 月まで実施した前中西遺跡の調査についてご紹介いたします。

今回の調査では、弥生時代（約 2,000 年前）から平安時代（約 1,000 年前）までの遺構・遺物が見つかりました。特筆すべきこととしては弥生時代の礫床木棺墓（写真）が 1 基見つかったことが挙げられます。礫床木棺墓とは、長野県北部を中心に広がる文化の墓制であり、本遺跡ではこれまでに 4 基見つかったことがありますが、新たにもう 1 基見つかったことは本遺跡の弥生時代を考える上で大変貴重な成果です。なお、骨や副葬品は残念ながら見つかりませんでした。（松田）



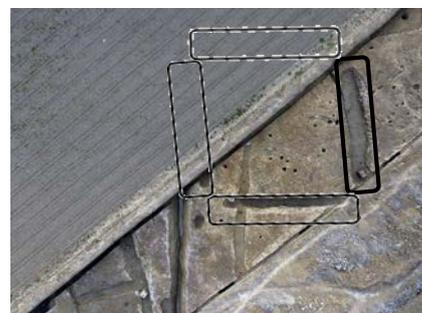
諏訪木遺跡(すわのきいせき)

平成 28 年 1 月 1 月から 3 月にかけて新設道路予定地の発掘調査を実施しました。調査面積 1,400 ㎡の範囲において、弥生時代中期から古墳時代前期にわたる住居跡 6 軒、方形周溝墓 2 基、室町から江戸時代にかけての溝跡が複数条確認されました。そのうち方形周溝墓はいずれも全体の 50% 以上の規模で、2 基とも 20 ㎡程度の大きさをもつ墓でした。

残念ながら、被葬者が埋葬されていた主体部は確認されませんでした。周溝に転落した弥生土器片が多量に検出され、土器の特徴から時期判断できる重要な発見となりました。（腰塚）



第 2 号方形周溝墓出土遺物検出状況



第 1 号方形周溝墓検出状況（真上から）

宮下遺跡(みやしたいせき)

宮下遺跡の発掘調査は、平成 29 年 5 月末の完了を目指して調査を継続しています。調査区北東側の地形の高まりにそって確認された大溝は、断面が薬研のかたちであり、溝の斜面に多くの柱穴が見つかり、幅 2.4 m、深さ 1.1 m を測ります。西から東へ直線的に伸びて、南側へ弧をえがいて曲がり、水が湧く谷状地形を内側に含んで直線的に調査区外へと伸び、総延長は 204 m 以上と長大なことが分かりました。宮下遺跡のすぐ北側には小字「駒形」の地名と、かつては駒形明神社があり、駒＝馬に関わる施設が存在した可能性がうかがわれます。大溝の特徴と併せて考えると、14～15 世紀ごろの牧（牧場）を区画する溝である可能性を考えてよいかもしれません。（蔵持）



連載 くまがやの古墳群

⑭ 村岡古墳群 —新たな古墳の存在が確認された古墳群—

村岡古墳群は、村岡地区の荒川右岸自然堤防上に所在する古墳時代後期に造られた古墳群です。従来、古墳 4 基が狭い範囲の分布で捉えられています。また、4 基のうち 3 基は、不幸にも開発により消滅し、その存在が知られていません。唯一その存在が知られているのは、高雲寺の墓地に隣接する碎石敷きの駐車場に所在するもので、墳丘はすでに削平を受け、現状では目にする事ができません。

ところが、最近になって、地元の研究者から情報がもたらされ、古墳である可能性を含めて、新たに 4 基の存在が確認されました。その 4 基の分布は、すでに確認されている 4 基の北東に近接して 2 基、離れて南に 1 基、東に 1 基です。このうち 2 基は削平（破壊）を受けており、墳丘を見る事ができません。残りの 2 基については、うち 1 基（推定径約 9 m）が一部破壊を受けていますが、墳丘が遺存しています。（吉野）

（右上写真：新たに確認された古墳のうちの 1 基）

（右下写真：破壊を受けた古墳の石室石材・葺石か、近隣場所にて確認）



文化財センター通信

◇平成29年度埋蔵文化財保護事業の展望

埋蔵文化財発掘調査は、年度当初から4件予定されており、そのうちの1件は、昨年度からの継続事業である宮下遺跡発掘調査事業です。ほかの3件は、上中条において個人専用住宅建設予定地、青山地区において共同住宅建設予定地及び上之土地地区画整理事業地内です。上之土地地区画整理事業に伴う発掘調査事業については、年間通じて断続的な調査を実施せざるを得ない例年にない状況です。

一方、整理・報告書作成事業については、昨年度発掘調査を実施した5件及び平成24年度に確認調査を実施した1件です。この事業も、例年になく報告書の刊行予定が多い状況です。

そして、大きな事業としましては、幡羅(はら)・西別府官衙(かんが)遺跡群の史跡国指定について年度末を目標に進めていく予定です(写真は西別府祭祀遺跡・湯殿神社境内)。(吉野)



◇国宝「歓喜院聖天堂」での声楽コンサート

4月1日、声楽家の岡崎麻奈未さんが妻沼聖天山本殿の国宝「歓喜院聖天堂」にて声楽コンサートを開催しました。旧妻沼町出身の岡崎さんは高音域のソプラノである「コロラトゥーラ・ソプラノ」として知られ、国内の音楽大学卒業後はウィーンを基点にヨーロッパで活躍しています。コンサートでは箏曲の響きを伴奏に、日本の懐かしみのある歌やオペラで著名な歌曲などを披露しました。透明感と技巧性ある声楽が狩野派が描いた拝殿の格天井に響き、約200名の来場者がその素晴らしい演奏に魅了されていました。(山下)



聖天堂拝殿でのコンサート

◇新指定文化財「みかりや」関連資料 記念講座

4月26日、みかりやが所在した地区の久下公民館において、「中山道と熊谷の文化財」と題し、当資料を含む中山道に関連した文化財などについて解説する講座を開催しました。「みかりや」が江戸時代後半から昭和時代初期に至るまで営んでいた様々な業と歴史資料などを紹介し、中山道と熊谷宿と関係する文化財との関わりから、久下地域と「みかりや」の歴史的意義について考える機会となりました。100名を超える来場者があり、中山道の歴史に対する関心の高さを実感しました。(山下)



記念講座の様子

文化財探訪

板井・出雲乃伊波比神社 (いたい・いづものいわいじんじゃ)

のどかな田園風景の中、和田川が社前を流れ、八雲橋を渡った正面に風格が漂う本殿が一段高く鎮座しています。出雲乃伊波比神社は古来よりその名がみられ、延長五年(927)の延喜式神明帳に記されています。文明年間(1469-87)に鹿島明神を勧請して社名が鹿島神社となりましたが、明治二十八年の旧社名復古で元来の出雲乃伊波比神社に名称が戻りました。八坂祭りで演奏される板井屋台囃子は、熊谷市指定無形民俗文化財として現在まで引き継がれています。

出雲乃伊波比神社はその名が示す通り、古代においては出雲系氏族に奉斎されたと考えられています。合祀されている摂社には天満社、氷川社があり、古代武蔵国では、物部氏に関わる神社とされ、周辺で確認される遺跡の解明に手がかりを与えています。出雲乃伊波比神社は歴史の謎を解く重要な情報を秘め、江南の地を温かく見守っています。(蔵持)



文化財コラム 空から見た遺跡 — 男沼 — 飯塚北遺跡 —

空から地上を見るためには、鳥のように飛び回りたいところですが、翼を持たない私たちには、航空写真を眺めることが安全です。航空写真からは意外と多くの情報が得られます。

空からみた熊谷の歴史を考えます。男沼地区には西から東に大きく蛇行する地割が明瞭です(昭和35年撮影写真)。これは、100m近い幅を持つことから利根川の本流跡とされます。本流と数本の支流を擁する大河であった利根川は、古代から中世期には妻沼台を巡ってハツ口方向へ流下していました。渡河の方法は船運に頼らざるを得ず、川辺には「津」と呼ぶ港湾施設が造られました。熊谷市域の南北には「東山道武蔵路」と呼ぶ主要道が通行し、妻沼付近は上野国への渡河点に当たり、現在でも交通の要衝です。

妻沼工業団地の発掘調査で明らかになった「飯塚北遺跡」は、その流路の屈曲部(湾戸と呼び船着き場や船溜まりの適地になる)に位置し、物資を収納する多数の倉庫跡や行旅の人々を潤した大井戸跡が見つかっています。遺跡は港湾施設の性格を持ち、後に有力豪族の拠点と考えられる方形の館跡が構えられていました。(新井)

参考「妻沼・飯塚北遺跡について」『熊谷市史研究』5号



報告 観音山の保存に向けて

熊谷市三ヶ尻に位置する観音山は標高約85m、周囲約850mで、松・なら・くぬぎ等が豊富に植生し、熊谷市の名勝に指定されています。南麓には龍泉寺が所在しています。江戸時代の知の巨人である渡辺華山もこの地を訪れ、その風光明媚な風景を絵にしたためるなどしています。平成28年度においては熊谷市と地元の観音山保存会との市民協働事業が実施され、樹木の管理や遊歩道の整備を行いました。今後は文化財の保存に向けた補助事業を中心として、所有者及び地域の保存会である「観音山保存会」とともに名勝の保全を継続的に進めていく予定です。(山下)



遊歩道の整備事業

編集後記

今回で「BUNKAZAI 情報」は第20号を迎えました。平成21年11月3日に創刊してから7年半の間、本市においては多様な文化財事業を展開し、様々なトピックスを報告することができました。今回の第20号という数から、モーツァルトのピアノ協奏曲第20番を思い起こしています。この曲はウィーンで活躍を始めたモーツァルトが、決意を持って自身の音楽の方向性を表現した作品と評価され、以降の作曲家に大きな影響を与えています。この協奏曲のように決意を新たに、次なる発行に向けて歩みを進めていきたいと思えます。今後とも本市の文化財保護行政へのご協力をお願い致します。(山下)



発行：平成29年5月12日

熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）

〒360-0107 熊谷市千代329番地

電話 048-536-5062 FAX 048-536-4575

メール c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp

HP：「熊谷デジタルミュージアム」<http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm>

文化財の紹介、ブログ「熊谷市文化財日記」、「BUNKAZAI 情報」バックナンバーなどを豊富に掲載